

4 最終的に十字架はどこに立てられるか

…神は愛でありたもう。神の愛は、一人の滅ぶことも見逃さないであろう。不信者に対して、最後の有罪判決を下し、多数の人々を火の池に投げ込むことを、キリスト御自身が実行なさるであろうか。彼の絶対愛がこれを阻(はば)むにちがいないと私は確信する。義は最終的の愛に吞まれるであろう。

それ故、最後の判決を下す前に、キリストみずから、あらゆる手段を用いて、死に至るまで悔改めなかった人々のために、十字架の福音をたずさえて黄泉にまでも追いかけて、救いへと導く努力に傾倒されるのではなかろうか。そして、最後の法廷において、キリストみずから十字架を立てられ、最後のゆるしの宣言を与えたものではなかろうか、と私はひそかに信じるのである。私は悔改めることなく不信仰のまま死んで行かれた人々に対しても、十字架の福音は必ず有効であると信じたい。だからこそ福音であり、神は愛なりである。最後の審判は、最後の救済となる。それ故に今、「汝ら悔改めて福音を信ぜよ」と叫ばねばならない。

神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。(ヨハネ福音書3・17) (1995年9月「復活」第348号)